
工学部 建築学科

工学基礎科目

専門科目

建築学科

人材の養成及び 教育研究上の目的

科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。

主任教授 勝又 英明

1. 建築学科の特性

建築学は、人間生活や社会機能を営むために、「建築」という人工環境を都市や地域に構築し、健全な都市や地域の発展に寄与することを目的とした学問である。科学技術が高度に発展した現代においては、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる「建築」を考えることが重要である。このような理念に基づき、本学科では建築・都市に関わる幅広い基礎知識を持ち、さらに各自が得意とする専門領域を持った人材を育成し、社会に貢献し得る人材を輩出したいと考えている。

本学科では工学的要素と芸術的要素の両面から総合的に「建築学」をとらえ、建築に関わる基礎知識の習得と建築学の各分野における高度な専門知識と技術の修得を意図したカリキュラムを構成している。幅広い建築学を4領域に分け、系統的に効率的に学習する。すなわち、建物の意匠や機能性に関わる「計画設計系」、建物の材料や施工を学ぶ「材料工法系」、建物の安全性に関わる「建築構造系」、建物内外の快適性や省エネルギーに関わる「環境設備系」の基礎知識を習得する。さらに、卒業研究では4領域の内の1領域についての専門知識を修得する。

建築学科のカリキュラムでは、1年次では主として工学全般の基礎学力を、2年次では建築学の基礎的専門科目を学習し、3年次後期以降では各自の進路・適性に合せて専門性を高めていく。このカリキュラムの中では、最低限知っておく必要がある内容が必修科目となっている。例えば、意匠設計に強く興味がある場合においても、建築構造力学、建築環境工学や建築材料・工法などの工学分野の知識は必須であり、これらの基礎知識がない場合には一級建築士の資格ですら取得することはできない。

2. 建築学科における学習・教育目標

建築学科の専門教育は、主として2年次以降に行われる。従って、1年次においては、自然科学、人文・社会科学、外国語に加えて、建築の基礎となる設計・構造力学を学習し、2年次以降、必修科目群である「建築基礎」を中心に、建築専門科目を体系的に学修する教育方針をとっている。この方針のもとに、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者や建築技術者を養成することを目標としている。

なお本学科の教育は、日本技術者教育認定機構（JABEE）を受審する予定である。別頁に本学科における「学習・教育目標」を示した表があるので、各授業科目がどのような学習・教育目標を掲げているかよく理解して履修してほしい。

3. 専門科目の履修と卒業研究

建築学科の専門科目等は、大別すると、主として1年次に履修する建築の基礎となる設計・構造力学の「専門科目」と2年次以降に履修する学科共通の建築基礎となる「専門科目」及び専門コース別の「専門科目」より構成されている。それぞれ卒業のための条件が明記されているので見落としのないように注意が必要である。また、以下の点については特に十分留意して選択してほしい。

- (1) 必修科目は配当年次に修得すること。
- (2) 1年次は「工学基礎科目」を広く履修するとともに建築の基礎となる設計・構造力学を履修し、2年次は主として学科共通の「専門科目」である「建築基礎」に配当されている必修科目を履修する。3年次以降は将来の自らの進路を考え適切に履修計画を行うこと。
- (3) 3年次後期には各研究室へ仮配属され、「事例研究」という科目を履修し、卒業研究への準備を行う。なお仮配属には3年次前期までの履修・修得科目の成績が考慮される。設計系の研究室は、設計科目の成績の履修・修得科目の成績も考慮される。
- (4) 3年次終了時の必要修得単位数は100であるが、110単位以上修得しておくことが望ましい。また、3年次への進級にあたり必要修得単位数が60であることに注意し、自ら選んだ各科目を確実に修得することが望ましい。
- (5) 4年次の卒業研究は、本人の適性を含め卒業後の進路を決める重要な科目である。なお、卒業研究は研究室に所属して行うことになるが、各研究室への配属人数は原則として同人数としている。

4. 卒業後と大学院

(1) 卒業後の進路

建築学科の卒業後の進路としては、中核をなすのは建築設計業務を行う建築設計事務所と施工管理・設計を行う建設会社である。建設会社は総合建設会社、専門建設会社、工務店があり、この設計事務所と建設会社に就職するのは学生の約70%程度である。(大学院進学者を除く)その他にはデベロッパーなどの不動産会社、建築技術系公務員(国、都道府県、市町村)、鉄道会社、一般企業の建築セクション(電機メーカー、自動車メーカー、放送会社、高速道路会社、空港など)、不動産管理会社、住宅メーカー、リフォーム会社、インテリア設計・施工会社、研究職など、建築学科の卒業生の進路は多岐に渡り、実社会のいろいろな分野での建築技術の活用が可能である。

(2) 大学院

4年間の学部教育の修了後、建築に対する更なる研鑽と高度な知識修得をめざす意欲のある学生のために、本学は大学院を設置し充実させている。この結果、建築・都市専攻における大学院学生数は多い。また、このことは学部における修学年限が短いことと多岐に亘る必要修得科目の多様さを物語っている。また近年の高度な知識を修得した者を求める社会からの強い要請に答えて一層の充実が図られている。現在、その構成は6学科目よりなり、修了者には各々修士(工学)、博士(工学)の学位が授与される。

5. 建築士について

本学科では、卒業後、「建築実務」の経験が2年以上あれば一級建築士試験を受験することが可能となる。また、本学科を修めて卒業することにより、建築実務の経験がなくても、二級建築士試験を受験することが可能となる。

なお、本学大学院建築・都市専攻では、所定の科目の単位取得し、修了した場合、1年または2年の「建築実務」の経験となる。建築士試験についての詳細は別頁に掲げているのでよく理解してほしい。

6. おわりに

多くのひとにとって、長い人生の中で大学・学生時代は最も輝かしい時期である。大学の自由な雰囲気の中で、学修面だけではない多様な経験を積み、生涯にわたって付き合える友人を作り、共に学生生活を楽しんでもらいたい。学生時代の経験は自己を形成する上での重要な糧となり、また、人生の中で最も深い記憶となるであろう。ただし、学生として自由に振る舞い、行動する際にも、必ず責任は自分にあることを認識しなければならない。何事にも責任を感じながら「おとな」として行動する必要がある。

また、建築という分野は勉強すべきことが非常に多く、ときには長時間の勉強をすることとなり、途方に暮れることがあるかも知れない。しかし、本学科で用意したカリキュラムを信じ、着実に実力を付けていって欲しい。前述したとおり、必修科目は最低限知っておくべき基礎知識であるので、必ず配当年次に単位を修得する。また、2年次以降になった場合、入学当時の意気込み・初心を忘れず、自己の適性を知った上で進むべき方向を徐々に見出し、適正に修得すべき科目を選択してほしい。

平成 30 年度 建築学科 教育課程表

学則第 18 条別表 1-1⑧ 工学部 建築学科 工学基礎科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区 科 目 分 群		授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成 30 年度現在)	科目 ナンバ リング
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
工 学 基 礎 科 目	数 学 系	数学基礎		0	2							森田,羽賀,澁谷,野原,香川	10-011	
		微分積分学(1)	○	2	2	(2)						金城絵利那	10-111	
		微分積分学(2)	○	2		2	(2)					金城絵利那	10-211	
		線形代数学(1)	○	2	2	(2)						三宅啓道, 植田美佳	10-112	
		線形代数学(2)	○	2		2	(2)					三宅啓道, 植田美佳	10-212	
		微分方程式論	△	2			2					末政直晃	10-311	
		ベクトル解析学	△	2				2				三上貴仁	10-312	
		フーリエ解析学	△	2				2				畑上到	10-313	
		関数論	△	2				2				野原勉	10-314	
		数理統計学	△	2			2					畑上到	10-315	
		代数学(1)		2			2					古田公司	10-316	
		代数学(2)		2				2				井上浩一	10-317	
	代数学(3)		2				2				畑上到	10-318		
	自 然 科 学 系	物理学基礎		0	4								物理学教室	10-021
		物理学(1)	○	2	2	(2)							須藤誠一, 三原国子	10-121
		物理学(2)	○	2	2	(2)							須藤誠一, 三原国子	10-122
		物理学(3)		2		2							岩松雅夫	10-221
		物理学(4)		2		2							岩松雅夫	10-222
		電磁気学基礎		2			2						須藤誠一	10-321
		相対論入門		2				2					長田剛	10-322
		物理学実験	○	2	4	(4)							物理学教室	10-123
		化学(1)		2	2								市村憲司	10-124
		化学(2)		2		2							木屋幸蔵	10-223
		化学(3)		2			2						吉田真史	10-323
		化学(4)		2				2					吉田真史	10-324
		化学実験		2	(4)	4							化学教室	10-125
		生物学(1)		2			2						宮崎正峰	10-126
		生物学(2)		2				2					宮崎正峰	10-224
		生物学実験		2			4	(4)					鈴木彰, 宮崎正峰, 他	10-127
		地学(1)		2			2						清家一馬, 小田島庸浩	10-128
		地学(2)		2				2					小田島庸浩	10-225
	地学実験		2				4	(4)				萩谷宏, 他	10-129	
	情 報 系	情報リテラシー演習	○	1	2								山口勝己, 荒木一	10-131
		コンピュータ概論		2		2							安井浩之	10-231
		プログラミング基礎		2		2							木村誠聡	10-233
		数値解析		2			2						木村誠聡	10-331
		ソフトウェア工学概論		2					2				安井浩之	10-235
工 学 教 養 系	工学リテラシー		2	2								西村功, 大村哲矢, 他	10-133	
	技術日本語表現技法		2		2							小林, 勝又, 小見, 福島, 西村	10-135	
	技術者倫理	○	2					2				勝又英明	10-232	
	環境概論		2	2								堀越篤史, 眞保良吉, 他	10-136	
	環境と社会		2		2							堀越篤史, 岡田往子, 他	10-137	
	科学技術史		2		2							吉田真史, 堂前雅史	10-138	
	インターンシップ(1)		1									教務委員	10-931	
	インターンシップ(2)		1									教務委員	10-932	
	海外体験実習(1)		2										10-933	
	海外体験実習(2)		2										10-934	
	科学体験教材開発		2	2								小林志好, 中村正人, 杉本裕代	10-935	
	金属加工(製図・実習含)		2				2					大谷眞一	10-331	
	電気工学概論(実習含)		2			2						江原由泰	10-332	
	工業概論		2		2							岩尾徹	10-333	

卒業要件	30 単位
	以下を含むこと
	○必修科目 17 単位 △選択必修科目 2 単位

○印必修科目 △印選択必修科目

区 科 目 分 群		授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成 30 年度現在)	科目 ナンバ リング
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	学 科 共 通	測量学及び実習 (1)	△3	3				4					今井龍一, 松浦弦三郎	17-261
		測量学及び実習 (2)		3					4				今井龍一, 松浦弦三郎	17-361
		建築C A D演習	△3	2					4				山口勝己, 桑原茂	17-311
		建築実験	△3	2					4				岩下剛, 大橋好光, 他	17-312
		特別講義 (1)		2										17-262
		特別講義 (2)		2										17-263
		特別講義 (3)		2										17-264
	建 築 基 礎	図学	○	1	2								手塚貴晴	17-111
		設計基礎 (1)	○	1	2								天野克也, 勝又英明	17-112
		設計基礎 (2)	○	3		6							天野克也, 小林茂雄, 他	17-113
		設計 (1)	○	4			8						勝又英明, 他	17-221
		設計 (2)	○	4				8					手塚貴晴, 柏木穂波, 他	17-222
		建築計画 (1)	○	2			2						天野克也	17-223
		建築計画 (2)	○	2				2					山口勝己	17-224
		建築材料 (1)	○	2				2					佐藤幸恵	17-231
		建築構法 (1)	○	2			2						大橋好光	17-232
		建築構法 (2)	○	2				2					小見康夫	17-233
		建築構造力学 (1)	○	2	2								大村哲矢	17-141
		建築構造力学 (2)	○	2		2							西村功	17-241
		建築環境工学 (1)	○	2			2						小林茂雄, 岩下剛	17-151
		建築設備学基礎	○	2				2					近藤靖史, 藤井研一	17-152
		建築総合演習	○	1						2			勝又英明, 岩下剛, 他	17-313
	建 築 計 画 ・ 設 計	建築史 (1)	△1	2			2						福島加津也	17-226
		建築史 (2)	△1	2				2					勝又英明	17-227
		建築意匠論	△1	2						2			手塚貴晴	17-323
		都市計画 (2)	△1	2					2				天野克也	17-324
		設計 (3)	△3	4					8				福島, 伊藤, 能作, 富永	17-321
		設計 (4)	△3	4						8			堀場, 矢田, 羽鳥, 伊藤	17-322
		設計 (5)	△3	4							8		堀場弘, 矢田康順, 栗田祥弘	17-421
		インテリアデザイン	△3	2					2				堀場弘	17-325
		都市デザイン	△3	2						2			高見公雄	17-326
		ランドスケープデザイン	△3	2						2			高沖哉	17-327
		都市計画 (1)		2				2					中村隆司	17-225
	建 築 工 学	建築生産管理	△2	2					2				小見康夫	17-331
		建築施工法	△2	2						2			黒田早苗	17-332
		建築材料 (2)	△3	2					2				佐藤幸恵	17-333
		建築防災計画	△3	2						2			安井昇	17-361
		建築構造力学演習	△3	2			2						大村哲矢	17-242
		木質構造	△3	2				2					大橋好光	17-234
		建築製図演習	△3	2					4				小見康夫, 佐藤幸恵, 他	17-314
		建築構造力学 (3)	△3	2				2					大村哲矢	17-341
		建築構造力学 (4)	△3	2					2				西村功	17-342
		鉄筋コンクリート構造	△3	2				2					大村哲矢	17-243
		鉄骨構造	△3	2					2				西村功	17-343
		建築構造計画	△3	2				2					東清仁	17-244
		地盤と基礎	△3	2					2				沼上清	17-344
		耐震・耐風構造	△3	2						2			焦瑜	17-345
		建築構造設計	△3	2							2		三町直志	17-441
		建築環境工学 (2)	△3	2				2					近藤靖史	17-251
		建築環境工学 (3)	△3	2					2				岩下剛, 小林茂雄	17-351
		建築設備学	△3	2					2				藤井研一	17-252
		建築設備学応用	△3	2						2			藤井研一	17-352
		建築音響学	△3	2					2				井上諭	17-353
		建築工学モデリング	△3	2					2				濱本, 宿谷, 近藤, 他	17-315
卒業研究 関連科目	事例研究	○	2						2			全教員	17-316	
	卒業研究	○	6									全教員	17-411	

卒業要件	6 7 単位
	以下を含むこと
	○必修科目 4 0 単位 △選択必修科目 内訳 △1選択必修科目 4 単位 ※△1～3の合計で2 7 単位 △2選択必修科目 2 単位 △3選択必修科目 ※

科目ナンバリング: YY-LMD

YY: 科目区分 17: 建築学科 専門科目
 L: レベル 1: 入門 3: 応用
 2: 基礎 4: 卒業研究等
 M: 科目群 1: 建築総合 4: 建築構造
 2: 建築計画設計 5: 建築環境設備
 3: 建築材料工法 6: その他
 D: 識別番号

履修上の注意事項

各年次における条件等

1. 履修登録単位数の制限

卒業までの各1学期あたりの履修登録可能な単位数は、24単位を上限とする。ただし、科目によりこの制限に含めない場合がある。詳細は「履修要綱」の「3. 履修心得ー7. 履修登録単位数の制限」を参照すること。

2. 単位修得状況や成績に関する指導

1年次前期終了時に修得単位が10単位未満*の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また、1年次終了時に修得単位が20単位未満*の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。なお、いずれの場合も途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

また、各年次終了時に、f-GPAが0.3未満の者には、退学勧告を行う。

3. 3年次進級条件

2年次終了時に修得単位が60単位未満*の者は、3年次へ進級できず2年次に留年となる。

4. 卒業研究着手条件

4年次になると各研究室に所属し、「卒業研究（通年6単位）」に着手するが、下記の条件を満たしていなければ着手できず、3年次に留年となる。なお、TAP（東京都市大学オーストラリアプログラム）に参加する学生については条件が異なる。

		卒業研究着手条件*		TAP学生用卒業研究着手条件*	
総単位数		100単位（ただし、下記の各要件を含むこと）		100単位（ただし、下記の各要件を含むこと）	
共通分野	合計	20単位		20単位	
	教養科目	10単位		10単位	
	外国語科目	8単位	以下を含むこと ○必修科目 6単位	8単位	以下を含むこと ○必修科目 6単位
	体育科目	2単位	○必修科目であること	2単位	○必修科目であること
専門分野	合計	80単位		74単位	
	工学基礎科目	以下を含むこと ○必修科目 15単位 ＝「技術者倫理」を除く全必修科目		以下を含むこと ○必修科目 15単位 ＝「技術者倫理」を除く全必修科目	
	専門科目	「卒業研究」において、卒業設計のみを行う者は、原則として「図学」「設計基礎(1)及び(2)」「設計(1),(2),(3),(4)」の単位を修得済みで、かつ「設計(5)」を履修することが必要である。		「卒業研究」において、卒業設計のみを行う者は、原則として「図学」「設計基礎(1)及び(2)」「設計(1),(2),(3),(4)」の単位を修得済みで、かつ「設計(5)」を履修することが必要である。	

5. 卒業要件

4年以上在学して、下記の卒業要件を満たした者は卒業となる。

		卒業要件*	
総単位数		124単位（ただし、下記の各要件を含むこと）	
共通分野	合計	20単位	
	教養科目	10単位	
	外国語科目	8単位	以下を含むこと ○必修科目 6単位 選択科目(英語科目) 2単位
	体育科目	2単位	○必修科目であること
専門分野	合計	97単位	
	工学基礎科目	30単位	以下を含むこと ○必修科目 17単位 △選択必修科目 2単位
	専門科目	67単位	以下を含むこと ○必修科目 40単位 △1選択必修科目 4単位 △2選択必修科目 2単位 △3選択必修科目 ※ ※△1～3の合計で27単位

*卒業要件非加算の単位数は含まない。

履修上の注意事項

1. 1～2年の学修に関して

- (1) 1年生は、工学基礎科目を幅広く修得することを心がける。また、1年次で履修すべき「専門科目」は1年次で確実に単位を修得すること。
- (2) 2年生は建築全般を幅広く学修することを心がける。特に建築学科共通の「専門科目」は建築専門のコア科目として位置づけられているので、確実に単位を修得するようにすること。
- (3) 1年次の終了時には、当該学年の必修科目、選択必修科目の他に、「工学リテラシー」「技術日本語表現技法」を修得していることを勧める。
- (4) 2年次の終了時には、「設計(1)及び(2)」「建築史(1)及び(2)」「建築計画(1)及び(2)」「建築材料(1)」「建築構法(1)及び(2)」「建築環境工学(1)及び(2)」「建築設備学基礎」の各科目を修得していることを強く勧める。
- (5) 3年次への進級に際し、最低60単位を修得することが義務付けられている。2年次終了時点での修得単位数がこれに満たない場合は、3年次に進級できない。
- (6) 各年度に準備された必修科目はその年度において修得することが望ましい。特に「建築構造力学(1)、(2)」は1年次において修得するように最大の努力をすること。これらの単位を未修得の場合、以後の学修計画に差し支えるので十分に注意すること。
- (7) 「物理学実験」について
工学基礎科目の「物理学(1)及び(2)」「物理学実験」の両科目は必修科目である。なお、両科目とも実験室の収容力の都合により、1年次において修得すること。

2. 3年の学修に関して

3年前期終了後に、「卒業研究」を行う研究室への仮配属が行われる。研究室への仮配属は本人の希望を優先するが、希望する人数が研究室の定員を超えた場合は、3年前期終了時点での成績（設計系は「設計」の成績）により上位の者から仮配属研究室を決定する。なお、振り分けは、「設計(3)」、「建築実験」、「建築製図演習」のいずれかの単位を取得している者から、成績の順位に従って行う。ただし第一志望による振り分けが終わった後は、通常通り、成績の順位に従って振り分ける。

3年後期に開講される、「事例研究」を必ず履修すること。この科目では、3年後期に仮配属された研究室で4年進級後に「卒業研究」を行うために必要な事柄を少人数で学習する。授業の形態は各指導教員により様々であり、卒業研究に必須の基礎知識を習得することが目的である。研究室仮配属の手続きを怠った者は、「事例研究」を履修できないので留意すること。仮配属方法の詳細は3年前期の適切な時機に掲示等で連絡する。

3. 4年の学修に関して

4年次への進級条件は、卒業研究着手条件と等しい。従って、卒業研究着手条件を満たさない者は、4年次へ進級できないので注意すること。4年次へ進級できなかった者は研究室仮配属が取り消され、再度、仮配属の手続きをしなければならない。卒業研究着手条件は、「各年次における条件等：4. 卒業研究着手条件」を参照すること。

4年次への進級条件が満たされたものは、仮配属された研究室への正式配属が決定し、卒業研究を開始する。卒業研究には、卒業設計と卒業論文の2つがあり、どちらか一つを選択するか、または、両方を行うことも可能である。詳細については、4年次の適切な時機に掲示などで連絡する。卒業に必要な単位は124単位であり、「各年次における条件等：5. 卒業要件」を参照すること。

4. 他学科・他学部・他大学の科目の履修について

他学科・他学部・他大学の科目を履修したい場合は、「履修要綱」を参照し、建築学科における履修科目とのバランスを考えながら、効果的に履修すること。

5. 職業分野と学習の関連性

- (1) 就職先の分野は大別すると設計、構造、施工、設備、その他に分けられる。
- (2) 設計方面を志望する者は、設計(1)～(5)を修得すること。推薦順位は設計科目の成績で決まることが多い。
- (3) 構造、施工、設備のいずれの分野を志望する者も、その専門分野に関係する科目を出来るだけ受講しておくこと。
- (4) 求人企業に対する推薦は3年次前期までの成績順位を考慮して行う。
- (5) 何れの分野においても最近では国際的な仕事や交流が増えているところから、外国語の修得に心掛けることが望ましい。

6. 大学院志望者へ

現在、産業界全般において修士修了者を歓迎する傾向がある。近い将来、企業の中堅以上の技術者は大学院修了者（修士または博士）の時代になると予想されるので、勉学に精励し意欲をもって進学を志望されたい。

- (1) 本学建築学科の大学院建築・都市専攻は修士課程2年及び博士後期課程3年からなり、平成30年4月現在次の領域に分かれている。

修士課程：建築計画（勝又教授）、建築設計（堀場教授、手塚教授、福島教授）、住環境計画（天野教授）、
建築構造学（西村教授、大村准教授、焦准教授）、建築材料工法（大橋教授、小見教授、佐藤准教授）、
建築環境設備学（近藤教授、岩下教授、小林（茂）教授）

博士後期課程：建築計画（勝又教授）、建築設計、住環境計画（天野教授）、建築構造学（西村教授）、
建築材料工法（大橋教授、小見教授）、建築環境設備学（近藤教授、岩下教授、小林（茂）教授）
質問は上記教員まで。

- (2) 大学院を目指す学生は、下記の注意に従って初学年から努力することが望ましい。
 - ・建築計画設計系：建築計画関連・設計の諸科目及び外国語と教養科目を可能な限り多く修得すること。
 - ・建築環境設備系：建築環境工学、建築設備学、等を含めて可能な限り多くの関連科目を修得すること。
 - ・建築構造系：建築構造力学（1）～（4）を中心として、構造全般ならびに建築全般に関心を持って修得すること。
 - ・建築材料工法系：建築材料・構・工法、生産・管理などに関連する科目を十分修得しておくこと。

学習・教育目標と授業科目

「建築学科における学習・教育目標」と各授業科目の内容がどのように関連するのかが示したのが以下の表である。関連の程度は、◎が関連の程度が強いことを示し、○は関連の程度は比較的強いことを示している。空欄は関連の程度が比較的弱いことを示している。

A	社会の発展に貢献できる人材の育成	国際化、少子高齢化、高度情報化、地球環境問題の顕在化、地域社会の希薄化など絶え間なく変化する社会から求められるものを常に自らに問い、建築分野における幅広い活動を通じて社会の持続的発展に貢献できる人材を育成する。
B	総合的な建築学の基礎能力の鍛錬	建築計画設計、建築材料工法、建築構造、建築環境設備等の各専門分野にわたる建築学の基礎を、建築設計を中心において総合的に学修し、将来のより専門性の高い分野にも対応できる基礎能力を鍛錬する。
C	建築学の工学的な基礎知識の修得	建築学の工学的な基礎となる自然科学、情報技術に関する基本的知識を修得する。
D	建築学の専門的能力の育成	①建築設計、建築・都市計画、建築意匠・歴史に関する専門的能力を育成する。 ②建築材料、建築構法、建築工法、建築施工に関する専門的能力を育成する。 ③建築構造、構造力学、構造設計、耐震・耐風工学に関する専門的能力を育成する。 ④建築環境、建築設備、都市環境に関する専門的能力を育成する。
E	総合的な設計能力の育成	地球環境、少子高齢社会、高度情報社会、建築・都市防災など社会的な観点から建築、都市が抱えている現代的な課題を把握し、それに対して建築学の専門知識を総合し、与えられた制約条件の下で計画的に創造性豊かな解決策をまとめ、提案、表現する能力を育成する。
F	建築家・建築技術者としての倫理観を有する人材の育成	建築・都市の文化や法律を理解して建築設計等を適切に行うとともに、設計や技術が、人間、社会及び自然環境に与える影響を十分認識し、かつ問題に責任を持って誠実に対応できる専門家としての倫理観を有する人材を育成する。
G	コミュニケーション能力の育成	第三者に伝達したい内容を論理的に記述し、口頭で発表し、討論することのできるコミュニケーション能力、基礎的な国際的コミュニケーション能力を育成する。また、異なる知識・考えをもつ人間と共同して、プロジェクトに関する問題解決を行う能力を育成する。
H	継続的な専門能力の向上と資格取得のための基礎学習能力の育成	本学科卒業後、生涯にわたり新しい建築学の知識を修得し、継続的な自己啓発ができる能力と建築士や技術士等の資格取得のための基礎学習能力を育成する。

学習・教育目標と授業科目の関与一覧表

群 目 科		授 科 業 目	学 習 ・ 教 育 目 標										
分 区			社会	建築学基礎	工学的な基礎	建築学専門				設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力
						設計計画	材料工法	建築構造	環境設備				
			A	B	C	D①	D②	D③	D④	E	F	G	H
共 通 分 野	教 養 科 目	教養科目(1)	○										○
		教養科目(2)	○										○
		教養科目(3)	○										○
		教養科目(4)	○										○
		教養科目(5)	○										○
	体 育	基礎体育(1)	○										
		基礎体育(2)	○										
	外 国 語	Study Skills										◎	
		Communication Skills(1)										◎	
		Communication Skills(2)										◎	
		Reading and Writing(1)										◎	
		Reading and Writing(2)										◎	
		TOEIC Preparation										◎	

群目科 分 区		授 科 業 目	学 習 ・ 教 育 目 標											
			社会	建築学基礎	工学的な基礎	建築学専門				設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力	
						設計計画	材料工法	建築構造	環境設備					
			A	B	C	D①	D②	D③	D④	E	F	G	H	
工 学 基 礎 科 目	数 学 系	数学基礎			○									
		微分積分学(1)			◎								○	
		微分積分学(2)			◎								○	
		線形代数(1)			◎								○	
		線形代数(2)			◎								○	
		微分方程式論			○									
		ベクトル解析学			○									
		フーリエ解析学			○									
		関数論			○									
	数理統計学			○										
	自然科学系	物理学基礎			○									
		物理学(1)			◎									○
		物理学(2)			◎									○
		物理学(3)			○									
		相対論入門			○									
		物理学実験			◎									○
		化学基礎			○									
		化学(1)			○									
		化学(2)			○									
		化学(3)			○									
		化学(4)			○									
		化学実験			○									
		生物学(1)			○									
		生物学(2)			○									
		生物学実験			○									
		地学(1)			○									
	地学(2)			○										
	地学実験			○										
	情報系	情報リテラシー演習	○		◎									
		コンピュータ概論			○									○
		プログラミング基礎			○									
		数値解析			○									
		ソフトウェア工学概論			○									
工学教養系	工学リテラシー			○										
	技術日本語表現技法	◎										◎	◎	
	技術者倫理		○								◎			
	環境概論										○			
	環境と社会										○			
	科学技術史			○										
	インターンシップ(1)	○										○		
	インターンシップ(2)	○										○		
	海外体験実習(1)			○							○			
	海外体験実習(2)			○							○			
	科学体験教材開発			○							○			
	科学体験教室実習			○							○			

		授 科 目	学習・教育目標										
			社会	建築学の基礎	工学的な基礎	建築学専門				設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力
						設計計画	材料工法	建築構造	環境設備				
			A	B	C	D①	D②	D③	D④	E	F	G	H
学 科 共 通	測量学及び実習(1)		◎										
	測量学及び実習(2)		○										
	建築CAD演習				○	○	○	○	◎				
	建築実験		◎		○	◎	◎	◎				○	
	特別講義(1)	○	○							○			
	特別講義(2)				○	○	○	○					
	特別講義(3)		○								◎	○	

	授 科	業 目	学習・教育目標										
			社会	建築学の基礎	工学的な基礎	建築学専門				設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力
						設計計画	材料工法	建築構造	環境設備				
			A	B	C	D①	D②	D③	D④	E	F	G	H
建築基礎	図学			◎		○	○	○	○	◎			
	設計基礎(1)			◎		○	○	○	○	◎		○	○
	設計基礎(2)			◎		○	○	○	○	◎		○	○
	設計(1)			◎		○	○	○	○	◎		○	○
	設計(2)			◎		○	○	○	○	◎		◎	○
	建築計画(1)			◎		◎				○			○
	建築計画(2)			◎		◎				○			○
	建築材料(1)			◎			◎						○
	建築構法(1)			◎			◎						○
	建築構法(2)			◎			◎						○
	建築構造力学(1)			◎				◎					○
	建築構造力学(2)			◎				◎					○
	建築環境工学(1)			◎					◎				○
	建築設備学基礎			◎					◎				○
	建築総合演習			◎			○	○	○	○			◎
建築計画・設計	建築史(1)			◎									○
	建築史(2)			◎		◎							
	建築意匠論	○				◎				○			
	都市計画(2)					◎				○			
	設計(3)					◎				◎		◎	
	設計(4)					◎				◎		○	
	設計(5)					◎				◎		○	
	インテリアデザイン					◎				○			
	都市デザイン	○				◎				○			
	ランドスケープデザイン	○				◎				○			
	都市計画(1)			◎									○
建築工学	建築生産管理					○	◎	○	○				
	建築施工法					○	◎	○	○				
	建築材料(2)			◎		○	◎	○	○				○
	建築防災計画					◎	◎	◎	◎				
	建築構造力学演習						◎	◎					
	木質構造						◎	◎					
	建築製図演習					◎	◎	○	○	○			
	建築構造力学(3)						○	◎					
	建築構造力学(4)						○	◎					
	鉄筋コンクリート構造						○	◎					
	鉄骨構造						○	◎				◎	
	建築構造計画					○	○	◎					
	地盤と基礎						○	◎					
	耐震・耐風構造							◎					
	建築構造設計					○	○	◎		○			
	建築環境工学(2)			◎		○			◎				○
	建築環境工学(3)					○			◎				
	建築設備学					○			◎				
	建築設備学応用								◎				
	建築音響学					○			◎				
	建築工学モデリング					○	○	◎	◎				
卒業研究	事例研究	○				◎	◎	◎	◎			○	
関連科目	卒業研究	◎				◎	◎	◎	◎	○		◎	◎

履修モデル

専門領域の科目一覧

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
専門科目（学科共通・建築基礎・建築教養・卒業研究関連科目）							
図学		建築史 (1)	建築史 (2)				
設計基礎 (1)	設計基礎 (2)	設計 (1)	設計 (2)	建築 CAD 演習			
		建築計画 (1)	建築計画 (2)		建築総合演習		
建築構造力学 (1)	建築構造力学 (2)	建築構法 (1)	建築構法 (2)	建築実験			
		建築材料 (1)					
		測量学及び実習 (1)	測量学及び実習 (2)				
		建築環境工学 (1)	建築環境工学 (2)		事例研究	卒業研究	卒業研究
		建築設備学基礎					
専門科目（建築計画・設計）							
			設計 (3)	設計 (4)	設計 (5)		
			インテリアデザイン	建築意匠論			
		都市計画 (1)	都市計画 (2)	都市デザイン			
				ランドスケープデザイン			
専門科目（建築工学）							
		木質構造	建築材料 (2)	建築防災計画			
			建築生産管理	建築施工法			
		建築構造計画	地盤と基礎				
建築構造力学演習	建築構造力学 (3)	建築構造力学 (4)					
	鉄筋コンクリート構造	鉄骨構造	耐震・耐風構造	建築構造設計			
		建築工学モデリング					
		建築製図演習					
		建築環境工学 (3)					
		建築設備学	建築設備学応用				
		建築音響学					
凡例	必修科目	選択必修科目					

履修モデル：意匠設計・インテリア設計・住宅設計・都市開発・不動産

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
専門科目（学科共通・建築基礎・建築教養・卒業研究関連科目）							
図学		建築史(1)	建築史(2)				
設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計(1)	設計(2)	建築CAD演習			
		建築計画(1)	建築計画(2)		建築総合演習		
建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	建築構法(1)	建築構法(2)	建築実験			
			建築材料(1)				
			測量学及び実習(1)	測量学及び実習(2)			
		建築環境工学(1)	建築環境工学(2)		事例研究	卒業研究	卒業研究
			建築設備学基礎				
専門科目（建築計画・設計）							
			設計(3)	設計(4)	設計(5)		
			インテリアデザイン	建築意匠論			
		都市計画(1)	都市計画(2)	都市デザイン			
				ランドスケープデザイン			
専門科目（建築工学）							
		木質構造	建築材料(2)	建築防災計画			
			建築生産管理	建築施工法			
		建築構造計画	地盤と基礎				
建築構造力学演習	建築構造力学(3)	建築構造力学(4)					
	鉄筋コンクリート構造	鉄骨構造	耐震・耐風構造	建築構造設計			
		建築製図演習					
		建築工学モデリング					
		建築環境工学(3)					
		建築設備学	建築設備学応用				
		建築音響学					
凡例	必修科目	選択必修科目					

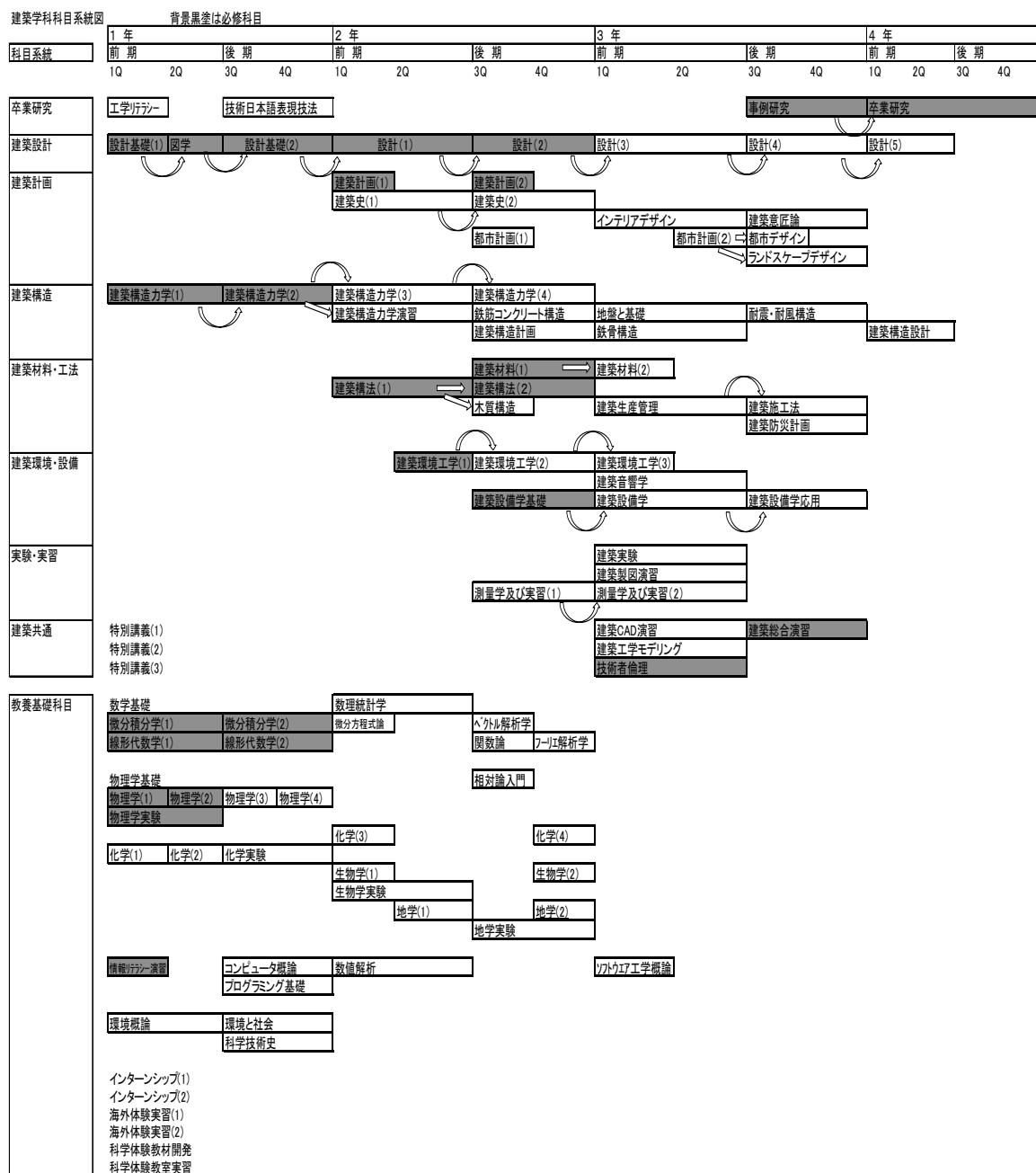
注）意匠設計・インテリア設計・住宅設計・都市計画分野を修得するためのコア科目を示している必要に応じて一学期に24単位を超えないように履修すること。

履修モデル：構造設計・設備設計・技術開発・施工 積算・施設管理 FM

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
専門科目（学科共通・建築基礎・建築教養・卒業研究関連科目）							
図学		建築史(1)	建築史(2)				
設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計（1）	設計（2）	建築 CAD 演習			
		建築計画(1)	建築計画(2)		建築総合演習		
建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	建築構法（1）	建築構法(2)	建築実験			
			建築材料(1)				
			測量学及び実習(1)	測量学及び実習（2）			
		建築環境工学(1)	建築環境工学(2)		事例研究	卒業研究	卒業研究
			建築設備学基礎				
専門科目（建築計画・設計）							
				設計(3)	設計(4)	設計(5)	
				インテリアデザイン	建築意匠論		
都市計画(1)				都市計画(2)	都市デザイン		
					ランドスケープ デザイン		
専門科目（建築工学）							
構造・材料 工法系科目		建築構造力学 演習	木質構造	建築材料(2)	建築防災計画		
				建築生産管理	建築施工法		
			建築構造計画	地盤と基礎			
			建築構造力学 (3)	建築構造力学 (4)			
環境設備系 科目			鉄筋コンク リート構造	鉄骨構造	耐震・耐風 構造	建築構造設計	
				建築製図演習			
				建築工学モデリング			
				建築環境工学(3)			
				建築設備学	建築設備学応用		
				建築音響学			
凡例							
必修科目		選択必修科目					

注）構造設計・設備設計・技術開発・施工 積算・施設管理 FM分野を修得するためのコア科目を示している必要に応じて一学期に24単位を超えないように履修すること。また、3年生以上では構造・材料工法系、環境設備系等の科目の系統を意識して履修することが望ましい。

履修系統図



資格

一級建築士、二級建築士、木造建築士

【資格内容】

一級建築士：国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者

二級建築士：都道府県知事の免許を受け、二級建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者

木造建築士：都道府県知事の免許を受け、木造建築士の名称を用いて、木造の建築物に関し、設計、工事監理等の業務を行う者

なお、建築士の業務範囲は建築士法第3条、第3条の2、第3条の3により定められている。

【受験資格】

■一級建築士の受験資格：本学建築学科卒業（「学歴要件」）後、2年以上の「実務経験」が必要となる。

■二級建築士・木造建築士の受験資格：本学建築学科卒業（「学歴要件」）と同時に受験資格が得られる。

○学歴要件：「国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という。）を修めて卒業」とあり、本学建築学科の場合、卒業と同時に全員が「学歴要件」を満たす。

○実務経験要件：「建築に関する実務として国土交通省令で定めるものである設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務」である。なお、「建築実務の経験」として認められるものは下記の通りである。

- 1 建築物の設計（建築士法第21条に規定する設計をいう。）に関する実務
- 2 建築物の工事監理に関する実務
- 3 建築工事の指導監督に関する実務
- 4 次に掲げる工事の施工の技術上の管理に関する実務
 - イ 建築一式工事（建設業法別表第一に掲げる建築一式工事をいう。）
 - ロ 大工工事（建設業法別表第一に掲げる大工工事をいう。）
 - ハ 建築設備（建築基準法第2条第三号に規定する建築設備をいう。）の設置工事
- 5 建築基準法第18条の3第1項に規定する確認審査等に関する実務
- 6 消防長又は消防署長が建築基準法第93条第1項の規定によって同意を求められた場合に行う審査に関する実務
- 7 建築物の耐震診断（建築物の耐震改修の促進に関する法律第2条第1項に規定する耐震診断をいう。）に関する実務
- 8 大学院の課程（建築に関するものに限る。）において、建築物の設計又は工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的として建築士事務所等で行う実務実習（インターンシップ）及びインターンシップに関連して必要となる科目の単位を所定の単位数（30単位以上又は15単位以上）修得した場合に実務の経験とみなされる2年又は1年の実務

なお、本学大学院の場合、修士課程の授業科目の中で、「インターンシップ及びこれに関連して必要となる科目」の単位修得により、一級建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定される。1年の認定がされた場合、大学院修了後、1年間以上の「設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務」を経た上で、一級建築士試験の受験資格を取得することができる。2年の認定がされた場合、大学院修了後すぐに一級建築士試験の受験資格を取得することができる。

【試験科目】

■一級建築士試験：

①学科の試験

学科Ⅰ〔計画〕建築計画：建築積算等

学科Ⅱ〔環境・設備〕：環境工学、建築設備（設備機器の概要を含む。）等

学科Ⅲ〔法規〕：建築法規等

学科Ⅳ〔構造〕：構造力学、建築一般構造、建築材料等

学科Ⅴ〔施工〕：建築施工等

②設計製図の試験

あらかじめ公表された設計課題についての設計製図

■二級建築士・木造建築士：

①学科の試験

学科Ⅰ [建築計画]

学科Ⅱ [建築法規]

学科Ⅲ [建築構造]

学科Ⅳ [建築施工]

②設計製図の試験

あらかじめ公表された設計課題についての設計製図

【問合せ先】

公益財団法人建築技術教育普及センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル

TEL 03-6261-3310(代表)

<http://www.jaeic.or.jp/>

【東京都市大学 工学部 建築学科における指定科目】

本学工学部建築学科は、建築士指定科目が認められた課程である。指定科目の分類に対し該当する科目は下表の通りである。

学校・課程名 東京都市大学 工学部 建築学科

指定科目の分類		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	備考
①建築設計製図 実務0～2年 (5単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	設計基礎(1)	1	必修	1	
		設計基礎(2)	1	必修	3	
		設計(1)	2	必修	4	
		設計(2)	2	必修	4	
		設計(3)	3	選択	4	
		設計(4)	3	選択	4	
		設計(5)	4	選択	4	
		建築製図演習	3	選択	2	
②～④ 建築計画, 建築環境工学 又は建築設備 実務0～2年 (7単位以上) 実務3～5年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築計画(1)	2	必修	2	
		建築計画(2)	2	必修	2	
		都市計画(2)	3	選択	2	
		建築史(1)	2	選択	2	
		建築史(2)	2	選択	2	
		建築意匠論	3	選択	2	
		建築防災計画	3	選択	2	
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学(1)	2	必修	2	
		建築環境工学(2)	2	選択	2	
		建築環境工学(3)	3	選択	2	
		建築音響学	3	選択	2	
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備学基礎	2	必修	2	
		建築設備学	3	選択	2	
		建築設備学応用	3	選択	2	

指定科目の分類		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	備 考
⑤～⑦ 構造力学, 建築一般構造又は 建築材料 実務 0～2 年 (6 単位以上) 実務 3～5 年 (3 単位以上)	⑤構造力学 (4 単位以上)	建築構造力学(1)	1	必修	2	
		建築構造力学(2)	1	必修	2	
		建築構造力学(3)	2	選択	2	
		建築構造力学(4)	3	選択	2	
		耐震・耐風構造	3	選択	2	
		地盤と基礎	3	選択	2	
		建築構造力学演習	2	選択	2	
	⑥建築一般構造 (3 単位以上)	建築構法 (1)	2	必修	2	
		木質構造	2	選択	2	
		鉄筋コンクリート構造	2	選択	2	
		鉄骨構造	3	選択	2	
		建築構造計画	2	選択	2	
		建築構造設計	4	選択	2	
		建築構法 (2)	2	必修	2	
	⑦建築材料 (2 単位以上)	建築材料(1)	2	必修	2	
		建築実験	3	選択	2	
		建築材料(2)	3	選択	2	
⑧建築生産 (1 単位以上)	⑧建築生産 (2 単位以上)	建築生産管理	3	選択	2	
		建築施工法	3	選択	2	
⑨建築法規 (1 単位以上)	⑨建築法規 (1 単位以上)	技術者倫理	3	必修	2	
⑩その他	⑩その他	図学	1	必修	1	
		建築 CAD 演習	3	選択	2	
		都市デザイン	3	選択	2	
		インテリアデザイン	3	選択	2	
		ランドスケープデザイン	3	選択	2	
		測量学及び実習(1)	2	選択	3	
		建築工学モデリング	3	選択	2	
		一級建築士試験の受験に必要な単位数は, 建築実務の経験 2 年: 上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計 30 単位を含め, 合計 60 単位以上※ 建築実務の経験 3 年: 同 合計 50 単位以上 建築実務の経験 4 年: 同 合計 40 単位以上				
二級・木造建築士試験の受験に必要な単位数は, 建築実務の経験 0 年: 上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計 20 単位を含め, 合計 40 単位以上 建築実務の経験 1 年: 同 合計 30 単位以上 建築実務の経験 2 年: 同 合計 20 単位以上						

※本学建築学科では、卒業要件を満たす（卒業する）ことによって、「上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計 30 単位を含め、合計 60 単位以上」を満たすようになっており、一級建築士試験の受験に必要な実務経験は「2 年」となる。